

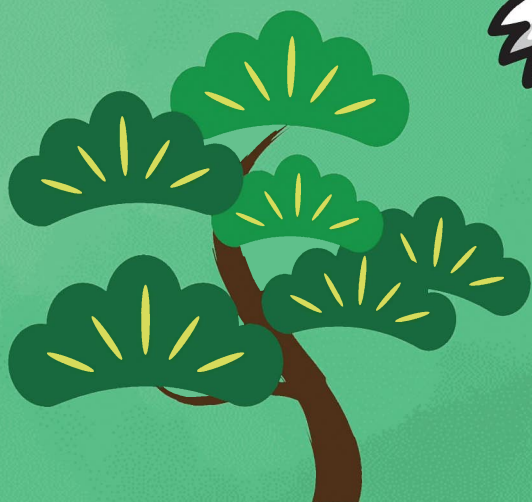


SAGA 2024

新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。

第78回国民スポーツ大会 バドミントン競技会

会 期:2024年10月5日(土)～10月8日(火)
会 場:唐津市文化体育館



主催 公益財団法人日本スポーツ協会
文部科学省
佐賀県
公益財団法人日本バドミントン協会
唐津市

SAGA 2024

新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。

SAGA2024 から、国体の愛称で親しまれてきた「国民体育大会」が「国民スポーツ大会」へ変わります。大会の名称が変わるはじまりの地に選ばれた佐賀県は、すべての人にスポーツのチカラを届ける新しい大会を目指し、さまざまな取り組みにチャレンジします。

リアルアスリート・ピクトプロジェクト

新しい「国民」の「スポーツ」大会だから、みんなで作りたい。そんな思いを込めて制作したピクトグラム。すべて実在するアスリートのシルエットが元になっています。



国スポ 総合開会式



10/5 (土)

SAGAスタジアム

佐賀県佐賀市日の出2丁目1-10

国スポ 総合閉会式



10/15 (火)

SAGAアリーナ

佐賀県佐賀市日の出2丁目1-10



(公財)日本スポーツ協会(JSPO)は、「スポーツは、もっとオモシロイ。」を掲げ、スポーツが誰にとってもオモシロくなり、幅広い世代でスポーツが身近にある社会の実現を目指す『JAPAN GAMES』構想を推進。JSPOと佐賀県は、連携・協働してスポーツの新たな価値を創造します。

大会HP詳しくはこちら

SAGA 2024



目 次

あいさつ	第78国民スポーツ大会会長 公益財団法人日本スポーツ協会会長	遠藤利明	1
あいさつ	文部科学大臣	盛山正仁	2
あいさつ	公益財団法人日本バドミントン協会会長	村井満	3
歓迎のことば	SAGA2024実行委員会会長	山口祥義	4
歓迎のことば	SAGA2024国スポ・全障スポ唐津市実行委員会会長	峰達郎	5
歓迎のことば	佐賀県バドミントン協会会長	宮島治	6
国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程			7
国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程			8
大会役員			9
競技会役員			13
競技役員			14
競技会係員・競技会補助員			17
大会実施要項 総則			18
第78回国民スポーツ大会バドミントン競技会実施要項			37
表彰式次第			41
表彰式会場図			42
競技日程			43
タイムテーブル			44
組合せ表（成年女子）			45
組合せ表（少年男子）			46
組合せ表（成年男子・少年女子）			47
競技の見方 ―バドミントンを楽しく見るために―			48
都道府県別参加人数一覧表			50
出場監督・選手一覧			51
競技成績決定方法			58
総合成績（天皇杯・皇后杯）一覧表			59
過去の成績一覧表			60
競技会場・練習会場案内図			85
競技会場配置図			86
競技上の注意			90
審判上の注意			93
輸送について			94
会場・関係機関連絡先一覧			95



あいさつ

公益財団法人日本スポーツ協会

会 長 遠 藤 利 明

国の特別史跡に指定されている「吉野ヶ里遺跡」をはじめとする重要文化財や、ユネスコ無形文化遺産に登録された「唐津くんち」などの伝統的行事が根付く、ここ佐賀県において第 78 回国民スポーツ大会が開催されますことは、誠に喜ばしい限りであります。

スポーツを通じた明るく豊かな国づくりを目指して昭和 21（1946）年からスタートした国民体育大会は、今日まで多くの関係者のたゆまぬ努力と情熱に支えられ、我が国最大のスポーツの祭典として発展を遂げ、本年から「国民スポーツ大会」へと名称を変え、新たなスタートを切ります。

今大会は、幅広い世代の人々が、スポーツが身近にある生活を体験出来る社会の実現を目指した「JAPAN GAMES」の取組を本格化し、すべての人に「スポーツの力」を届けることができる大会を目指しております。

スポーツを「する」人、「みる」人、「ささえる」人、すべての方々がスポーツのオモシロさを体験し、スポーツで日本を元気にする大会となることを願っております。

さて、国民スポーツ大会を巡っては、今後の在り方に関して様々なご意見が寄せられておりますが、より魅力ある持続可能な大会とするため、幅広い分野の皆様に参加いただいた有識者会議を設置しております。

今後、検討を進めるに当たっては、今回の佐賀大会における「JAPAN GAMES」をはじめとする新たな取組の成果も充分活かしていきたいと考えております。

今大会は、当初から 1 年遅れての開催となりましたが、佐賀県の関係者の皆様をはじめ、開催を控えていた各県の皆様方のご協力なくしては実現できなかったものであり、改めてお礼申し上げます。

結びに、今大会の開催にあたり、長年諸準備にご尽力いただきました、地元佐賀県をはじめ関係の皆様方のご支援、ご協力に対し心から深く感謝申し上げます。



あいさつ

文 部 科 学 大 臣

盛 山 正 仁

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、ここ佐賀県において第78回国民スポーツ大会「SAGA2024国スポ」が盛大に開催されますことを、誠に喜ばしく存じます。

佐賀県は玄界灘、有明海という多くの恵みをもたらす2つの海に面し、広大な佐賀平野やラムサール条約湿地に登録された「東よか干潟」「肥前鹿島干潟」等豊かな自然の魅力にあふれ、国の特別史跡である「吉野ヶ里遺跡」や400年以上の歴史を誇る「有田焼」を有する等、歴史と文化が息づく県です。

昭和51年の若楠国体以来48年ぶりの佐賀県での開催となり、「新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。」をメインメッセージに、エンタメ性の高い式典、ナイトゲームの開催、スポーツホスピタリティ等、スポーツの可能性を追求する「新しい」取組に挑戦し、県全域を舞台に熱戦が繰り広げられます。

また、トップアスリートの育成を通じ、県民がスポーツを「する」「育てる」「観る」「支える」「稼ぐ」というスポーツ文化の裾野拡大を目指し、スポーツのチカラを生かした人づくり、地域づくりを進める「SAGAスポーツピラミッド構想」という「新しい」仕組みも広がっています。国民体育大会から国民スポーツ大会への名称変更後初めての開催にふさわしい、今後のモデルケースとなる魅力的ですばらしい取組となっております。

郷土の代表として参加される選手の皆さんが、これまで積み重ねてこられた練習の成果を思う存分発揮され、我が国の国際競技力の向上が図られるとともに、この機会に全国の仲間や佐賀県民の皆さんとの交流の輪を広げられ、思い出に残る大会となりますことを期待しております。

本年はパリオリンピック・パラリンピック競技大会が開催され日本代表選手が大活躍し、国民のスポーツへの関心はますます高まっています。

文部科学省としましても、アスリートや子供たちの活動の機会を確保し、スポーツの持つ力やすばらしさが社会の活力につながるよう関係の皆様と一丸となって取組を進めてまいります。

結びに、「SAGA2024国スポ」の開催に当たり御尽力いただいた地元佐賀県、会場となる各市町をはじめとする関係の皆様の御支援、御協力に対し、心から敬意と感謝の意を表しまして、御挨拶いたします。

令和6年7月19日



あいさつ

公益財団法人日本バドミントン協会

会長 村井 満

国民体育大会から国民スポーツ大会へ・・・

佐賀県での開催は、昭和 51 年（1976 年）の「若楠国体」以来 48 年ぶりとなりますが、昨年度の「燃ゆる感動かごしま国体、燃ゆる感動かごしま大会」から「SAGA 2024 国スポ・全障スポ」へ、名称変更初年度の記念すべき大会です。その新しくなったバドミントン競技会が唐津市において開催されますことは、誠に喜びに堪えないところであり、心からお喜び申し上げます。

「SAGA 2024 国スポ・全障スポ」のキャッチフレーズは、「新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。」です。国内最高峰のスポーツの祭典としての位置づけは変わりませんが、「する」「観る」「支える」とさまざまな形でスポーツとの関わりを提案する、素晴らしいキャッチフレーズだと感じます。

選手の皆様には、郷土の代表としての誇りを胸に、最高のパフォーマンスを発揮されることを期待しています。それは、大会を支える関係者すべての願いであり、さらに観るものすべてに感動を与えることにつながると確信しています。

近年、日本のバドミントン競技レベルは世界のトップランクであり、パリオリンピックでも、混合ダブルスの渡辺・東野ペアが 2 大会連続の銅メダルを獲得、初出場の女子ダブルス、志田・松山ペアが同じく銅メダルを獲得しました。その熱気が「SAGA 2024 国スポ バドミントン競技会」につながるよう、地元の皆様のおおいなる盛り上げを期待しております。

結びに、開催にご尽力いただきました地元唐津市と佐賀県の関係者、佐賀県バドミントン協会の皆様に、心から感謝申し上げますとともに、大会の成功と参加される皆様のご健闘を心からお祈り申し上げ、あいさついたします。



歓迎のことば

SAGA2024実行委員会会長

佐賀県知事 山口 祥義

「すべての人に、スポーツのチカラを。」新しい大会へようこそ。

感動する。魂が揺さぶられる。年齢や国境を超えて、人と人がつながる。心身ともに健やかになる。スポーツには、人間の根源的な喜びを生み出すチカラがあります。

こうしたスポーツの真の価値を大切にする佐賀県では、「SAGAスポーツピラミッド(SSP)構想」と銘打ち、アスリートの人生にコミットした人材育成、セカンドキャリア支援やスポーツビジネスの創出を進めて、アスリートが現役時代も引退後も、キャリアを活かして輝き続けることができる社会の実現を目指してきました。

その中で開催する「SAGA2024」は、スポーツ新時代を多くの方に実感できる大会として、日本に世界標準のスポーツ文化が根付く転機となると確信しています。

「SAGA2024」バドミントン競技会、いよいよスタートです。

昔シャトルの羽に使われたこともあるというカササギは、佐賀県に生息する天然記念物の鳥です。カチカチと鳴くので、カチガラスとも呼ばれ、勝利を導く鳥とも言われています。是非探してみてください。

「SAGA2024」は”国体”から”国スポ”へと変わる大会です。

競技会では、選手個人にスポットを当てた表彰制度やメダルの授与、ナイトゲームや動画配信により選手の活躍を称え、熱戦をより多くの方に届けます。式典でも新たな演出に取り組みます。総合開会式の自由で楽しさあふれる選手団入場、音と光、映像を最大限に活かした総合閉会式など、大会に関わるすべての人と感動を分かち合います。

選手の皆様には、日々の練習に打ち込んできた情熱と、磨き上げてきた技を、この舞台で披露していただければ、これ以上の喜びはありません。

佐賀県は、「弥生時代の吉野ヶ里遺跡」、「日本文化が花開いた肥前名護屋城」、「明治維新の礎を築いた偉人の輩出」と三回にわたり日本史転換の舞台となりました。これは「挑戦なくして、伝統なし」のマインドがこの地で培われているからだと考えます。有田焼、佐賀牛、佐賀酒といった文化・食材が世界で高い評価を受けていることもその証です。スポーツの世界も例外ではありません。佐賀県は、先人達の積み重ねに想いを馳せながら、新たな挑戦を続けていきます。

スポーツ新時代の幕が上がる、その瞬間を一緒に体感できることを嬉しく思うとともに、開催にあたり、多大な御支援と御協力を賜りました関係者の皆様に心から感謝を申し上げ、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

SAGA 2024 国スポ・全障スポ唐津市実行委員会会長

唐津市長 峰 達郎

第 78 回国民スポーツ大会「SAGA 2024」バドミントン競技が、ここ唐津市において盛大に開催できますことは誠に光栄です。

市民を代表して、全国各地からお越しいただいた選手・監督並びに関係者の皆様を心から歓迎申し上げます。

「国体」の愛称で親しまれた「国民体育大会」は、今回の第 78 回大会から「国民スポーツ大会（国スポ）」へと生まれ変わり、佐賀県は新たな「はじまりの地」となります。

ここ、唐津市は、約 430 年前に太閤豊臣秀吉が大坂城に次ぐ規模で「肥前名護屋城」を築き、全国から名だたる戦国武将たちが参集し、能や茶の湯を楽しむなど、今につながる文化や交流が生まれた「はじまりの地」として語り継がれています。

歴史や文化が息づくここ唐津市で、群雄割拠しながら全国の都道府県代表選手の皆様が、日ごろの鍛錬とたゆまぬ努力の成果を十分に発揮され、熱い戦いを繰り広げていただき、競技を「する人」「観る人」「支える人」、すべての人にスポーツのチカラが届く、新しい大会となることを期待しております。

本市では、バドミントン競技をはじめとする正式競技 6 競技、公開競技 1 競技、デモンストラーションスポーツ 3 競技を行います。

大会期間中は本市を訪れるすべての皆様を、市民一体となり心のこもったおもてなしでお迎えできるよう準備を進めてまいりました。

また、本市は、特別名勝「虹の松原」や特別史跡「肥前名護屋城並びに陣跡」、「唐津城」、伝統工芸の「唐津焼」、ユネスコ無形文化遺産に登録された「唐津くんちの曳山行事」など、風光明媚なロケーションと多くの歴史や文化を有しています。

あわせて、「呼子のイカ」や「佐賀牛」など新鮮な海の幸、山の幸も豊富に取りそろえておりますので、本大会をとおして唐津市のさまざまな魅力を十分に感じていただき、「自然・歴史・食の宝庫からつ」を満喫していただければ幸いです。

結びに、本大会の開催にあたり、多大なるご尽力を賜りました関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、選手の皆さまのご健闘を祈念申し上げ、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

佐賀県バドミントン協会

会長 宮島 治

第 78 回国民スポーツ大会「SAGA2024」バドミントン競技会を、全国から多くの選手、監督、役員の皆様をお迎えして、佐賀県唐津市で開催できますことは、誠に喜ばしく、心より歓迎申し上げます。

今から 48 年前の 1976 年に、「若楠国体」の愛称で、佐賀県で開催された第 31 回国民体育大会では、バドミントン競技会が、佐賀県牛津町にて行われました。

その当時、バドミントン競技は、十分に普及しているとはいえず、初日は盛り上がりにかけていたものの、最終日には、体育館が満員となり、大声援の中で熱戦が繰り広げられたそうです。また、若楠国体では、民泊が採用され、選手と地元の人々との一体感が素晴らしかったと聞いています。地元の人が、何度も体育館に足を運び、バドミントンに魅了されたのだと思います。

今では、バドミントンは人気のスポーツとなりました。高度なテクニック、激しさと柔軟さを併せ持つバドミントンの魅力には奥深いものがあります。激しい競技でありながら、老若男女が一緒に楽しめる身近なスポーツでもあります。

このバドミントンの魅力を、若楠国体と同じように、この唐津から全国へ発信するとともに、選手の皆様のひたむきなプレーに地元の人々が触れてもらうことで、バドミントンの素晴らしさを、より広く知ってもらう機会になれば、こんなに素晴らしいことはありません。

唐津市は、虹の松原などの風光明媚な自然と、唐津焼に代表される伝統と文化に彩られた場所です。熱戦の合間に、もしお時間がありましたら、唐津の魅力にも触れて頂ければ嬉しく思います。

本大会の開催に際して、ご尽力をいただきました関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、選手の皆さんのご健闘を心より祈念して、歓迎のことばといたします。



天皇杯

皇后杯

国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程

第1条 国民スポーツ大会開催基準要項第11項に基づき、天皇杯は、男女総合成績第1位の都道府県、皇后杯は、女子総合成績第1位の都道府県に授与する。

2 第1位が2都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第2条 天皇杯及び皇后杯は、総合閉会式に授与し、次回の総合開会式において返還する。

第3条 天皇杯又は皇后杯を授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

- (1) 信託会社又は確実な金庫に保管する。
- (2) 破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。
- (3) 公益財団法人日本スポーツ協会が優勝都道府県名刻印のため又はその他の必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第4条 本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附 則 本規程は、昭和41年4月1日制定

昭和45年1月22日一部改定

昭和48年7月10日一部改定

昭和54年5月9日一部改定

平成17年6月16日一部改定

平成22年3月17日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日(平成23年4月1日)から施行する。

平成30年4月1日一部改訂

令和6年1月1日一部改訂



大会会長トロフィー

国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程

第1条 国民スポーツ大会開催基準要項第11項に基づき、国民スポーツ大会会長トロフィー（以下「大会会長トロフィー」という。）は、正式競技別男女総合成績第1位の都道府県に授与する。

2 第1位が2都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第2条 大会会長トロフィーは、競技会表彰式に授与し、次回競技会において返還する。

第3条 大会会長トロフィーを授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

- (1) 責任をもって保管する。
- (2) 破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。
- (3) 優勝の刻印を次回大会までに行うものとする。ただし、第1条第2項の場合は、当該都道府県で協議して決めるものとする。
- (4) 公益財団法人日本スポーツ協会が必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第4条 本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附 則 本規程は、昭和41年4月1日制定

昭和45年1月22日一部改定

昭和48年7月10日一部改定

昭和54年5月9日一部改定

平成17年6月16日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成23年4月1日）から施行する。

平成30年4月1日一部改定

令和6年1月1日一部改定

大会役員

2024年7月31日現在
(順不同・敬称略)

名誉会長	盛山正仁				
会長	遠藤利明				
副会長	越川均	坂元要	益子直美	森岡裕策	
顧問	室伏広治	山口祥義			
	伊藤雅俊	森善朗	安西孝之	岡崎助一	
	大野敬三	山本浩	岩田史昭	池田めぐみ	
	今井純子	今浦千信	上島しのぶ	鹿島丈博	
	勝田隆	角屋憲正	刈谷好孝	工藤保子	
	國吉富美子	高井志保	高野瑞洋	田畑綾美	
	靈池恵量	東瀬義人	坂東美紀	松井守	
	丸山由美	室伏由佳	山倉紀子	山下泰裕	
	草野満代	藤田裕司	森井じゅん	室城信之	
	金子日出澄	湯川和之	若月等	土橋登志久	
	石丸元国	石川伸男	坂巻義男	鬼頭有紀子	
	長谷川洋子	吉田長寿	齋木尚子	多賀恒雄	
	安藤淳	上治丈太郎	湧永寛仁	上原絵美	
	佐藤健司	馬場美香	山口宏	南和文	
	宮永美寿津	千田健一	中里壮也	岡本友章	
	大野淳	加藤出昇	田村恒彦	蒔田実	
	山崎勝洋	眞下昇	山口徹正	田中伸周	
	村田利衛	建部彰弘	市野保己	丸石博	
	中村ゆり子	齋藤良太郎	谷田部和彦	木村博美	
	井上弘	今川啓一	近藤重和	池谷正成	
	大澤明美	古城資久	小野賢二	園山和夫	
	中山俊行	衣笠剛	知念かおる	出口弘之	
	田邊哲人	城門政文	前川恵	上杉晃央	
	布村幸彦	茂野直久	生島典明	大沢陽子	
	谷藤節雄	熊谷幸一	千葉玲佳	奥山雅信	
	穂本哲哉	藤田知巳	石松英昭	田子昌之	
	久保正美	山崎成夫	塩見清仁	田中不二夫	
	井出仁博	今西博一	中村宏平	松本智広	
	森山喜博	南部則雄	福永秀樹	高橋繁浩	

河 口 端 子	增 田 和 伯	中 嶋 実	山 本 誠 三
松 本 恭 幸	船 田 一 彦	奥 田 晃	横 尾 英 治
近 藤 一 幸	小 寺 洋	河 村 祐 一	渡 邊 浩 三
田 中 稔	馬 越 祐 希	青 木 章 泰	城 戸 英 敏
旗 生 康 之	小 柳 勝 彦	辛 木 秀 子	宮 成 康 藏
藤 本 格	岩 元 幸 成	平 良 朝 治	藤 原 正 樹
大河原 嘉 朗	川 上 隆 弘	佐 藤 廣 子	奈 良 隆
小 菅 司	宇津木 妙 子	菊 幸 一	小 林 久 美
寺 澤 正 孝	山 口 純 子	あ べ 俊 夫	今 枝 宗 一 郎
本 田 顕 子	安 江 伸 夫	藤 原 章 夫	矢 野 和 彦
西 條 正 明	寺 門 成 真	尾 縣 貢	鈴 木 大 地
田 嶋 幸 三	山 西 健 一 郎	坂 田 東 一	三 須 和 泰
内 田 貞 信	川 合 俊 一 弘	藤 田 直 志	三 屋 裕 子
富 山 英 明	馬 場 益 二	砂 岡 良 治	金 丸 恭 文
橋 本 聖 子	安 道 光 豊	河 田 正 也	千 丸 玄 室
中 村 真 一	三 宅 雅 人	村 井 満 一 郎	松 丸 喜 一 郎
網 代 忠 宏	土 田 川 堯	丸 匠 幸 一 郎	福 田 達 夫
世 耕 弘 成	笹 川 堯 薫	番 匠 幸 一 郎	不 老 安 正
久 保 素 子	北 川 勝 信	岩 城 光 英	清 野 智 司
石 井 良 之	加 藤 有 司	荒 川 裕 美	柏 木 清 士
達 増 和 彦	鶴 田 富 博	吉 遠 藤 祐 司	北 村 元 裕
大 井 川 俊 人	福 山 本 浩	岡 田 伸 達	花 角 英 世
熊 谷 八 朗	馳 口 義 隆	杉 本 谷 多 加 二	高 野 秀 章
新 部 守 一	田 本 英 典	中 脇 本 周 平	大 牧 野 明 次
阿 向 井 弘 光	河 池 田 誠 也	西 岸 本 周 平	林 村 岡 嗣 政
齋 藤 元 彦	越 宗 孝 昌	苧 田 知 岩 男	服 部 誠 太 郎
丸 山 達 市	楨 田 實 博	大 塚 生 益 直	春 山 豪 志
柿 内 慎 吾	甲 斐 隆 博	麻 生 口 一 博	岩 田 和 親
大 塩 康 一	玉 城 デニ 康	原 岡 資 磨	山 下 雄 平
大 串 博 志	古 川 直 美	福 奥 田 弘 展	井 上 利 治
大 場 芳 博	甲 斐 直 健		
江里口 秀 次	田 島 健 一		

参 与	橋 場 健	大 杉 住 子	西久保 弘 克	留 守 茂 幸
	武 藤 明 美	木 原 奉 文	徳 光 清 孝	藤 崎 輝 樹
	江 口 善 紀	古 賀 陽 三	中 本 正 一	一ノ瀬 裕 子
	青 木 一 功	木 村 雄 一	富 田 幸 樹	田 中 秀 和
	桃 崎 祐 介	酒 井 幸 盛	指 山 清 範	中 村 圭 一
	下 田 寛	野 田 勝 人	岡 口 重 文	弘 川 貴 紀
	猪 村 利恵子	石 丸 太 郎	土 井 敏 行	坂 口 祐 樹
	藤 木 卓一郎	池 田 正 恭	石 井 秀 夫	八 谷 克 幸
	古 川 裕 紀	宮 原 真 一	古 賀 和 浩	原 田 寿 雄
	石 倉 秀 郷	定 松 一 生	落 合 裕 二	南 里 隆 介
	牟 田 清 敬	加 藤 雅世子	飯 盛 清 彦	飯 盛 裕 介
	荒 木 薫	長 村 順 也	愛 野 時 興	岩 瀬 豊 美
	末 次 康 裕	陣 内 芳 博	野 田 亮	吉 松 幸 宏
	深 草 光 明	竹 田 敬 道	廣 重 昭 博	吉 田 聖 之
	中 村 直 人	峰 英太郎	園 田 耕太郎	大 島 信 子
	西久保 敏	川 寄 和 正	志 田 正 典	南 里 玲 子
	平 川 幸 雄	松 田 孝 友	大 竹 義 治	牛 島 英 人
	谷 政 司	吉 田 彰	山 口 七 重	内 田 伸 也
	秀 島 寛	小 松 政		
委 員 長	山 本 浩		宮 原 耕 史	
	岩 田 史 昭	日 比 謙一郎	ヨーク セッターランド	二 宮 智 浩
副 委 員 長	川 原 貴	菅 原 哲 朗	松 永 敬 子	三ヶ田 礼 一
総 務 委 員	加 藤 光 国	松 田 基 子	辻 睦 弘	廣 田 暢 実
	森 丘 保 典	守 屋 志 保	出 崎 和 夫	宇 野 武
	宮 野 欣 也	樋 口 和 彦	小 澤 大 樹	塚 原 弘 幸
	野 口 友 里 之	加 藤 弘 和		
	森 岡 貴 之			

委 員	了卓司男美巖治昇壽子二裕大太郎平樹之一暢彰典聖之司良信晃樹広治博美	平野村裕重正宏橋千明好和航俊匡茂信雄保義浩邊清裕善良健俊真
	平能佐黒安川平高三関杉金政宇高見山小新近西宮山渡松徳菅北今荒木田	了卓司男美巖治昇壽子二裕大太郎平樹之一暢彰典聖之司良信晃樹広治博美
	高橋聖一崇義生二潔之生吾三男真理子映司樹幸已紀一郎孝哲久也幸宏人男博彦二帆彰	高橋聖一崇義生二潔之生吾三男真理子映司樹幸已紀一郎孝哲久也幸宏人男博彦二帆彰
	栗原奥信憲剛哲信二山野治原口井泉久谷野村上伏岡本城司村崎村藤	高橋聖一崇義生二潔之生吾三男真理子映司樹幸已紀一郎孝哲久也幸宏人男博彦二帆彰
	吉村政弘史勉修輔茂司男輔史司徹也紀幸大博規久香樹也將一郎生二哉司己衛門之要	吉村政弘史勉修輔茂司男輔史司徹也紀幸大博規久香樹也將一郎生二哉司己衛門之要
	細濱野川泉斗藤中前中澤口木丸野島玉井原中藤谷保藤貝田部長戸	吉村政弘史勉修輔茂司男輔史司徹也紀幸大博規久香樹也將一郎生二哉司己衛門之要
	松本康芳淳則章大祐幸雄亘子三太宏元忠清史人行司二夫成和也定彦恵	松本康芳淳則章大祐幸雄亘子三太宏元忠清史史人行司二夫成和也定彦恵
	小寺澤梶木口原辺本田口竹丸村橋埜田澤田橋部木野山葉内平吉部原	松本康芳淳則章大祐幸雄亘子三太宏元忠清史史人行司二夫成和也定彦恵

競技会役員

(順不同・敬称略)

名 譽 會 長 會 副 顧 參	會 長 會 長 問 与	峰 村 伊 笹 宮 水 岡 江 伊 大 檜 藤 江 八 中 江 丹 富 山 奥 大 田 源 川 粀 熊 猿 多 渡 神 吉 廣	達 井 藤 山 崎 上 部 里 藤 西 崎 田 頭 島 山 畑 野 永 崎 村 野 邊 憲 勝 優 秀 善 久 島 辺 田 村 嶋	郎 滿 浩 成 和 義 広 男 彦 之 夫 穂 彦 三 誠 幸 到 司 夫 豊 淳 理 治 重 子 幸 郎 功 浩 一 嗣 喜	朝 栗 篠 宮 伊 青 黒 石 宮 草 中 岩 岩 牛 岡 坂 坂 小	倉 原 原 藤 木 崎 本 野 村 熊 崎 島 本 本 本 野	康 宣 智 辰 一 俊 悦 真 徹 隆 満 樹 朗	善 康 文 海 之 茂 初 治 子 陽 勝 一 俊 徹 隆 満 樹 朗	宮 脇 石 久 原 中 浦 進 中 青 田 宅 久 永 渡 渡 愛 坂	島 山 保 村 田 藤 川 山 中 井 田 邊 野 口	治 人 子 樹 一 郎 夫 介 次 三 幸 文 史 志 浩 尚 興 広	紀 行 貴 夫 太郎 吾 憲 直 春	美 芳 広 信 健 省 元	田 邊 田 地 橋 村 子 井 島	多 渡 森 倉 広 西 真 坂 鍋	川 森 末 山 辻 井 松 山 川	浪 次 口 手 本 田 副	文 祐 孝 千 守 基 啓 ヨリ 邦	人 二 文 秋 久 文 志 エ 彦
		岩 脇 佐 大 古 山 吉 熊 白 西 木 林 井 木 宮 吉 野	本 山 伯 路 藤 下 村 本 水 山 下 山 上 原 島 田 田	真 秀 玄 美 奈 宏 壽 慎 大 敬 将 恵 弘 洋 啓 清 善 和	二 明 一 郎 治 次 郎 成 一 夫 介 美 一 郎 介 一 道 成	川 森 末 山 辻 井 松 山 川	浪 次 口 手 本 田 副	文 祐 孝 千 守 基 啓 ヨリ 邦	人 二 文 秋 久 文 志 エ 彦										

競 技 役 員

(順不同・敬称略)

レフエリー	上 田 敏 之								
総 務 部 長	嘉 村 泰 博								
総 務 副 部 長	大 野 淳	靱 山 優 子							
総 務 主 任	田 邊 理								
総 務 副 主 任	吉 村 美佐子	上 田 直							
総 務 委 員	重 憲 道	安 永 友 信	合 力 美 佐	池 田 和 広					
	的 場 年 美	岩 下 司	藤 瀬 義 明	畔 田 かずさ					
	嘉 村 律 子	古 賀 貴 子	林 紀代子	梁 井 芳 子					
	山 田 幸 子	田 中 恵 子	武 山 てるみ						
デビュティレフエリー	田 中 昌 樹								
競技審判副部長	吉 村 典 嗣	田 中 賢 一							
競 技 主 任	川 浪 文 人								
競 技 委 員	藤 田 尚 志	小 淵 久仁子	渡 辺 浩	手 塚 邦 明					
	真 子 憲	城 島 幸 恵	山 田 ヨリエ	神 田 愼 一					
	松 本 啓 志	山 口 千 秋	原 口 澄 雄	藤 田 皓 正					
総合成績計算委員長	源 憲 治								
総合成績計算委員	森 祐 二	古 賀 尚 之							
進 行 主 任	熊 岡 秀 幸								
進 行 副 主 任	小 野 裕 美								
進 行 委 員	古 賀 将 史	松 尾 砂 織	原 秀 勝	田 原 幸 男					
	加 茂 隆 信	八 田 英 樹							
記 録 主 任	末 次 孝 文								
記 録 副 主 任	内 山 詞 文								
記 録 委 員	西 村 省 吾	高 本 智 子	谷 口 啓 介	俵 野 宏					
シャトル主任	倉 地 信 夫								
シャトル委員	実 本 和 彦	佐 藤 光 平	寺 西 裕 子	羽 根 和 代					
	原 慎 裕 子	東 美 子							

15

線 審 主 任
線 審 副 主 任
線 審 員

川 近 古 武 諸 田 丹 杉 山 角 奥 大 伊 牛 小 山 力 池 池 江 藤 榊 岩 渡 川 大 寺 富 御 橋 武 長 大 青 馬 田	原 藤 賀 藤 富 中 下 原 口 山 浦 東 島 道 口 丸 田 田 口 井 谷 本 部 原 石 崎 高 所 間 富 浜 迫 木 場 代	勝 浩 稔 清 茂 実 健 真 磨 穂 亮 達 正 宜 貴 い ず 知 侑 好 和 志 理 敬 敬 咲 仁 清 克 和 康 浩 健 雄 誉 浩	重 明 章 一 文 結 太 優 央 乃 華 輔 弥 幸 亮 大 蓮 弘 茉 恵 代 保 恵 子 枝 美 美 子 隆 泰 大 史 宥 雅 斗 一	富 森 久 原 古 西 山 楠 内 下 中 山 山 中 川 山 添 蒲 廣 大 上 金 内 溝 副 高 溝 宮 古 納 荒 中 山 大	山 保 田 川 田 口 田 尾 田 野 崎 下 山 口 田 田 原 田 塚 村 子 竹 上 田 尾 上 島 川 富 谷 島 下 宮	海 政 岳 優 哲 晋 フ ミ 芳 嘉 能 哲 佐 純 翔 隆 哲 知 由 美 典 雅 藤 智 珠 鈴 智 誠 裕 美 啓 洋 治	都 紹 人 生 也 子 文 治 明 也 和 美 平 太 郎 司 明 健 希 里 子 子 子 美 花 明 吾 也 智 亮 太 平 子	德 渡 八 松 山 福 平 楠 前 八 中 松 館 野 斎 諸 川 小 光 矢 塩 古 永 八 大 久 保 本 上 本 橋 村 宅 原 邊	淵 部 木 本 口 田 野 田 田 尋 野 隈 林 中 藤 岡 崎 松 野 多 崎 川 井 並 保 本 上 本 橋 村 宅 原 邊	圭 裕 秀 貴 和 法 心 大 寿 和 優 敦 玄 雅 嘉 颯 和 龍 真 紀 功 恵 茂 悠 典 順 か 郁 奈 恭 悠	一郎 子 樹 行 利 弘 健 文 幸 敏 也 子 昌 哉 宏 太 幸 子 文 穂 子 子 子 行 華 子 平 哉 子 旭 平 基	馬 太 川 藤 中 森 角 吉 稗 河 田 西 大 松 矢 石 杉 中 権 中 小 寺 蒲 西 納 小 高 馬 八 岩 岡 後 松	渡 田 上 瀬 島 田 川 田 野 中 村 石 岡 多 橋 町 園 藤 島 谷 崎 原 富 西 松 場 木 下 本 藤 門	明 くる 鉄 公 真 翔 み 円 昂 隆 啓 和 欣 啓 右 英 智 南 め 亜 千 恭 加 須 由 美 竜 一 祥 泰 仁 諒 美	季 平 司 之 太 香 希 二 道 則 也 志 京 明 子 美 ぐ み 希 子 晶 子 代 子 愛 智 子 二 智 光 聖 祐 子
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	---	---	--	---

練 習 会 場 員

壇 田 多 久 中	代 久 山	恵 春 祥 晃	子 香 代 子	高 吉 伊 徳	良 田 藤 久	正 次 直 恵	人 郎 美 子	井 石 中	上 橋 島	純 多 恵 わ	一 子 こ	西 梅 村	限 野 元	拓 子 子
-----------	-------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	-------	-------	---------	-------	-------	-------	-------

競 技 会 係 員 ・ 競 技 会 補 助 員

競 技 会 係 員

【SAGA2024国スポ・全障スポ唐津市実行委員会実施本部一同】

競 技 会 補 助 員

【SAGA2024国スポ・全障スポ唐津市実行委員会ボランティア一同】